



令和6年度 大野城市立大城小学校 校長便り

第14号

(令和6年11月8日 金曜日)

【文責】校長 弘松 英樹

大城の風

～校長室の窓から～



本校ホーム
ページは
こちらから
←

「ちがう」から始めるコミュニケーション

今週初めに全校朝会を行い、担当の先生から「たのしいコミュニケーションをかんがえよう」として、日頃の子どもたちの言葉のやりとりについて考える話がありました。

最初に、「夜おそい時間は何時から?」という質問に対して、次の4つから選ばせました。

① 7時 ② 9時 ③ 11時 ④ 12時

みんなに手をあげてもらうと、当然ですが答えはバラバラです。つまり、同じ質問でも、おたがいの考えや感じ方は「ちがう」ということがわかります。

次の質問は「あなたがクラスの友達から言われて「いやだなあ・・・」と感じる言葉は?」というものでした。選択肢は、次の4つです。

① おとなしいね ② まじめだね ③ 個性的だね ④ マイペースだね

この質問に対して、子どもたちが手を挙げた回答も本当にバラバラでした。

私は、この様子を興味深く感じながら見ていました。どの言葉も、決して相手を傷つけようとする言葉ではないように思えますし、例えば「まじめだね」や「個性的だね」は、どちらかというとはめ言葉として使われる場合も多く、教師も子どもの長所として、その子に言っていることがあると思います。でも、こうした言葉の中で、「いやだ」と感じる言葉があり、それが一人一人「ちがう」ということを私たちは知っておかなければならないと思いました。

学校でも、日々子どもたちの間でトラブルが起こります。話を聞いてみると、一方は相手を傷つけるつもりではなかったけど、ある言動に対してもう一方はいやだったということがよくあります。トラブルが起こる前のコミュニケーションで大切なことは何でしょうか。それは、自分と相手は「ちがう」ということを意識することでしょう。このことは、子どもにとっては、なかなか難しいことです。起こったトラブルを振り返る時に、自分と相手の「ちがい」を理解し、認め合うことが、解決のための大事な気づきであり、成長につながる貴重な体験だと考えています。

とはいえ、「どんな言葉や行動が相手を傷つけるか」を大人が教えないといけないことも事実です。「夜遅い時間は何時?」がバラバラなのは、家庭によって生活時間が様々だからだと思います。同様に、日頃どんな言葉を使っているか、人にどんな態度をとっているかも家庭によって違います。私も一人の親として、自分の言動や子育てを反省することが多々あります。まず大人が、自分の言葉遣いや行動を振り返り、自分と相手は(たとえ親子であっても)違う人間だという前提で、相手を思いやるコミュニケーションについて考えていきましょう。

どんな時も自分と相手が「ちがう」ことを想像しようとする人間でありたいですね。